

令和2年7月1日に思う

胸を張って言うほどのことではありませんが、ずっと続けていることの一つに、ユニセフに対しての心ばかりの支援があります。

そのことで、先日ユニセフからお礼状が届きました。そこには次のような事がつづられていました。「新型コロナウイルスの影響で手洗いの大切さが再認識されるなか、南スーダンのある村では、人々が虫やゴミが浮かぶ川から水をくみ、飲料水として使っています。本当はこんな水を子どもたちに飲ませたくありません。でも、この水がなければ私たち家族は生きていけません。このため下痢に苦しめられる子どもたち。生まれた子どもの10人に1人が5歳まで生きることが出来ません」と。

私たちの日本はどうでしょうか。蛇口をひねって出てくるのは「安全な水」以外に考えられません。

わが川上村は、ダム事業に翻弄されながらも、「水がめ」としてその使命を果たす決意をしました。そのことを誇りに思うとともに、今後もその役割をさらに進化させていきたいと思えます。

来月8月1日は「水の日」。水に感謝し、その大切さを考える日であります。